

「なら自治会ニュースコンクール2017」講評

(2018/03/10 審査委員長)

本コンクールは2011年3月11日に発生した東日本大震災を教訓に、同年度から生駒郡、北葛城郡の2郡を対象にスタートした。家族、親族、友人、ご近所さんの安否確認をはじめとする地域内での情報の伝達、共有手段として最も威力を発揮したのは、避難所に掲示されたり配布された紙の媒体であり、その重要性を再認識させられたからである。

こうしたコンクールは全国的にも例がなく、試行錯誤をしつつその後対象地域を広げ、2014年度から全県コンクールとなった。

今回応募があったのは、7市5町の23自治会・大字・自治連合会である。

残念ながら、昨年度より14団体減ったが、これは本コンクールへの認知が進み、前年に応募したものの選外となった団体が、紙面に改良点がなかったことから応募を控えたためと思われる。現に今回は絶対評価で上位にランクされる紙面が極めて多かった。

一方で、ニュースを発行していない自治会が圧倒的に多い中、昨年中に創刊して応募した自治会が4団体あり、本コンクールが創刊や復刊のモチベーションになっていることを実感した。

今後、自治会ニュースの普及を図るとともに、応募することに意義を感じられるコンクールにしていきたい。

今回の選考に当たり、全県コンクールとなってから三年連続で最優秀賞を受賞した真美ヶ丘自治会（香芝市）の「まみがおか」を『殿堂入り』として顕彰するとともに、その編集責任者を審査委員として招請することとした。

『審査委員奨励賞』は評価基準に基づく総合評価にとらわれることなく、各審査委員が独自の視点から奨励の意味で選んだものである。

なお、選外となった団体には審査委員のコメントを送付することにした。参考になればと思う。

最優秀賞

◆「星和台ニュース」(河合町／星和台自治会)

トップページ全面を使って、多くの住民が参加するバス旅行や祭りを取り上げ、カラー写真をうまくあしらったレイアウトで、地域を盛り上げようという意欲が伝わってくる。各専門部や同好会の活動報告など内容は多岐にわたるが、よく整理され、自治会活動に関心を持ってもらうための工夫がなされている。9月号の「夜回り防犯所感」は秀逸。夜の雰囲気の背景に、簡潔な文章と写真を添え、「夜回り」の意味を実感させるところは見事。ページ数が多く、どこに何の情報があるか分かりにくいので、トップページに目次を置いてはどうだろうか。

毎日新聞社賞

◆「西真美だより」(香芝市／西真美自治会)

防災や見守りの情報が豊富で、安心・安全な地域にしたいという姿勢が明確。特に「自主防災通信」のクオリティが高く、情報提示が具体的で、ためになる。全体的に自治会活動と関係団体の情報をバランス良く丁寧に掲載しているが、地域の実情を映し、高齢者、子育て世代、子どもたちそれぞれへの目線がはっきりと感じられる。カラーとモノクロをページで使い分け変化をつけているが、成功していると言えるだろう。迷惑駐車は他地域にも共通する問題。「パトロール実施報告」は地道な調査で数字を示しており、説得力がある。

優秀賞

◆「泉台ニュース」(河合町／泉台自治会)

モノクロで手作り感あふれる紙面だが、読みやすく、総合的にクオリティが高い。表紙に掲示板的機能を持たせ、自治会の概要や掲載されている大まかな内容をつかむことができる。情報はキメ細かで、企画物、豆知識など多彩。自治会運営の方向性を探るアンケート調査は、集計をグラフで分かりやすく提示しており、会員間の情報共有への強い意欲がうかがえる。何と云っても、昭和44年の自治会発足時から毎月欠かさず発行してきたこと、毎回12ページというボリューム、しかも高水準を保っていることに感心させられる。

◆「大宮地区総合広報紙 きずな(絆)」(奈良市／大宮地区自治連合会・社会福祉協議会)

自治連合会・社会福祉協議会が発行するニュースだが、読んでいて楽しい。特にカラー写真がきれいで、見やすく読みやすい。小学生児童が増えている地域であり、「小学校・幼稚園トピックス」の欄を設けているが、広域を対象としていることから、それぞれの年代層を意識した紙面づくりに努めていることもうかがえる。自治連合会のニュースづくりは単位自治会とは違った難しさがあると思うが、人物にスポットを当てたり、地域を考える企画記事があれば、より読み応えのある紙面となるだろう。

◆「北今市だより」(香芝市／北今市自治会)

読者(住民)も参加する記事、沢山の記事よりも本当に伝えたい記事、地域や人のつながりに役立つ記事。この三点を心がけているというが、それが見事に具現化されている。カラフルで写真と記事のバランスも良く、読みやすい。「町内会長さん、いらっしゃーい」や「こどもペンリレー」のコーナーで毎回複数の住民にスポットを当て、住民の投稿写真で「北今市の宝物」を紹介するなど、日常に新たな発見をもたらしてくれる企画性が素晴らしい。パソコン、スマホ対応も進んでいる。

審査委員奨励賞

●わんわん防犯賞「葛城台ねっとニュース」(上牧町／葛城台コミュニティねっと)

9月に創刊したばかりだが、自由な発想で楽しみながら地域活動をしていることが各ニュースから伝わり、読んでいてワクワクする。特に「わんわんパトロール隊」は飼い主の健康と地域の防犯のため結成されているが、犬の写真と名前が紹介されているのがユニーク。効果はてきめん。一カ月後に新隊員が10頭も増えたという。活動に弾みがつくことだろう。

●うんちく賞「なんごう瓦版」(御所市／南郷自治会)

自治会長が一人で作っている個性あるニュースが、今回いくつかあったが、その中で際立っていた。型にはまらず、キャッチコピーや文体、ニュースの選定が実に個性的。歴史あるムラの祭事の寸景、四季の風景のカラー写真は、住民の郷土愛を育むことだろう。ゴミ収集日など押さえるべきところはしっかり押さえつつ、自治会則や死についても果敢に切り込んでいく姿勢が潔い。

●郷土愛賞「六道山区よりお知らせ」(広陵町／六道山区)

3月に創刊。新旧住民が混在する地域で、土地の歴史を全住民に知ってもらい、郷土愛を培ってもらおうと、紙面づくりに工夫を凝らしている。地域は13組の小コミュニティに分かれているが、毎回、組の代表者が交代で自分の住むエリアをカラー写真付きで紹介している。いわれや伝承を足を使って拾い集めており、回想も織り混ぜてほのぼの感があり、読むだけでも楽しい。

●コラム賞「中山台ニュース」(河合町／中山台自治会)

モノクロで何の変哲もない作りだが、ホッコリ感があり、住民間の情報共有への意欲がにじみ出ている。「顔の見える関係」も築きたいと、ニュースの各戸配布の際に”声かけ”を行っている。自治会活動の意味やあり方を、やさしい語り口で連載している「ミニコラム」が光る。肩ひじを張らず淡々と説いていることが、反って説得力を持ち、考えさせる内容となっている。

●頑張る連合会賞「自治連合会だより きずな五條」(五條市／五條市自治連合会)

23の地区自治連合会(単位自治会は296)をまとめ、市自治連合会としての活動を伝える。表紙は目を引く大きなカラー写真と目次。中面もすっきりしている。組織の性格上、防災訓練やクリーンキャンペーン、講演会といった広域マターが中心となるだろうが、青空市場の開催など多くの市民の関心を惹く催しにも取り組んでいる。今後、キメの細かさや企画性をどう盛り込んでいくか。

殿堂入り

★「まみがおか」(香芝市／真美ヶ丘自治会)

審査委員

- ・津野 恭 誉 元毎日新聞社論説委員
- ・野原 靖 毎日新聞社奈良支局長
- ・山内 嘉 信 日本映画撮影監督協会副理事長
- ・舟木 豊 奈良県知事公室広報広聴課長
- ・鈴木 遥 ノンフィクション作家
- ・佐々木六郎 真美ヶ丘自治会長

以上